活用の検討経過

学校名		旧　永田　小　学校
廃校年月		令和　3　年　3　月
検討開始の背景	検討の開始時期	令和　3　年　4　月
	検討開始の契機	☑ 政策方針　☐ 地域要望　☐ 財政負担軽減 ☐ その他　（　）
	廃校時点の課題	☑ 管理コスト　☑ 老朽化　☑ 防犯 ☐ その他　（　）
検討体制	検討主体	☑ 庁内　☐ 外部検討会　☐ 民間委託
	庁内部署の関与	☑ 総務・財政・管財　☑ 企画　☐ 商工・観光 ☐ 健康・福祉　☐ 教育・文化　☐ 公民連携 ☐ その他　（　）
	外部専門家等	☐ 有り　☑ 無し
検討プロセス	検討期間 （開始～決定）	約　1　年
	検討した活用案	敷地及び建物（体育館）の利活用
	検討の主なステップ	庁内で検討した結果、廃校小学校の利活用方針案について決定した。
	最終的な活用案に至った理由	地域の指定避難所として、体育館を活用する必要があったことから、体育館を活かした方法を検討。

地域住民等の意見の把握・反映	住民への情報提供	☑ 広報　☐ 説明会　☐ 回覧等 ☐ その他　（　）
	意見収集の方法	☐ 説明会　☐ ワークショップ　☐ アンケート ☑ その他　（区長への説明）
	主な意見・要望の内容	指定避難所として引き続き活用する必要があったことや、公共施設として残してほしいという要望が多かった。また、市内に類似の運動施設がなかったことから要望が多かった。
	意見に対する対応	体育館を残し、校舎は全て解体。体育館を囲んで400ｍトラックを整備した。有事の際には、防災の拠点となるようヘリポートとしての機能も有した。
	合意形成において工夫した点	地域の区長と密に連絡を取りながら、事業を進めた。
公共施設として転用	公共施設での活用を選択した理由	地域からの公共施設として残してほしいという要望が多かった。引き続き、子どものための施設としてもらいたいという意見も多かったことから、公共施設として活用した。
	運営形態	☐ 直営　☑ 指定管理　☐ 委託 ☐ その他　（　）
	条件で重視した点	☐ 契約価格　☑ 活用形態　☐ 事業期間 ☐ その他　（　）

○中野市ふるさと交流拠点施設

